

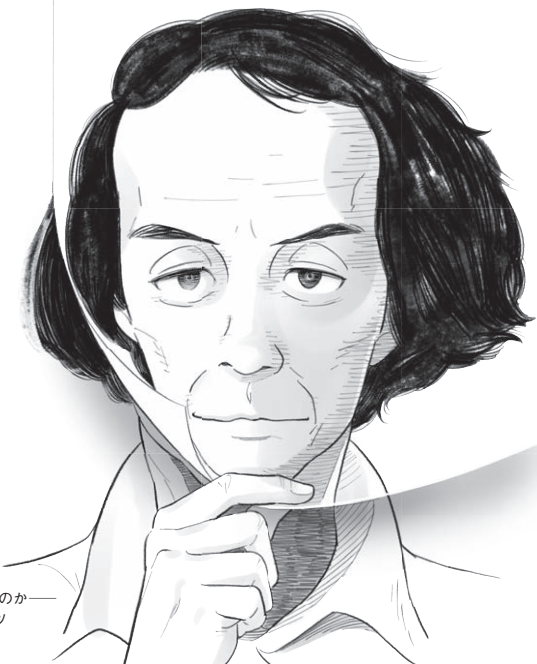
戦後日本を代表する作曲家・武満徹は、ドビュッシーやメシアンの影響を受けた前衛音楽を作曲しながら、映画やテレビ、舞台のための実用音楽も多く作った。1959年、来日中のストラヴィンスキーに絶賛され、1967年に琵琶^{びわ}、尺八とオーケストラのための《ノヴェンバー・ステップス》で世界的な名声を得ると、作品演奏の機会は世界へと広がる。明るく、洗練された透明感をもつ響きは、本日の作品にもあらわれている。

B
2025
SEPTEMBER
[第2043回]
👁️👁️

密やかに透明感ある響き

武満 徹

Toru Takemitsu (1930–1996)



映画『他人の顔』よろしく
顔をめくると何があらわれるのか——
妖しさ全開、世界のタケミツ
イラストレーション: ©IKE

映画好きの武満

武満は多くの映画音楽を手がけた。実験的手法を試みることも多く、武満が意欲的に取り組んでいたことが伺われる。《3つの映画音楽》に収録された作品のうち、映画『黒い雨』と『他人の顔』では、それぞれ映画の音楽賞も受賞した。『他人の顔』は、主人公が仮面をかぶって他人になりすますというあらすじで、一場面に武満も出演している。